

米国カリフォルニア州 ブドウは中生品種に移行

[FreshPlaza 2024年8月16日](#)

現在、カリフォルニア州のブドウの出荷は順調である。バリー青果会社のジャスティン・ベドウェル氏は、「数週間前の暑さは、一部の品種の出荷を早めただけでなく、若干の損傷も与えた。出荷量の増加を妨げているのは、収穫時に果房から損傷した果実を除去するための時間が増えたことだ」と話す。(以下「」は同氏の発言)

カリフォルニア州のブドウ出荷シーズンの主要部分は昨年よりは早く始まったが、昨年もシーズンの始まりが遅かった。今年は7月10日頃に出荷が始まった。

現在、同社は赤、緑、黒のブドウを順調に出荷している。「弊社では早生品種から中生品種に移行している。梱包中の品種は緑ではグレートグリーン、赤はティムコとクリッシーで、おそらく来週にはスカーレットロイヤルの早いものと黒ブドウの梱包が始まると見られる。」

収穫量については、昨年はシーズンの初めにかかなりの雨が降り、カリフォルニア州のブドウ産業は供給量を大幅に減らした。今年は通常の供給量に戻ったようである。「しかし、早い段階で見られた暑さを考えると、業界が必ずしも目標の数字を達成するとは思えない。ただし、天候が順調であれば、11月まで十分な出荷量があるだろう。」

需要は9月に持ち直す

一方、需要については、多くの商品と同様に、今月は消費者がまだ休暇を過ごしており通常の購入パターンに戻っていないため、安定してはいるがペースが落ち込んでいる。とはいえ、7月には好調な需要が見られており、来月は再び需要が高まると予想され、需要が供給を上回る状況になる可能性がある。

昨年は供給不足が強気の価格設定につながったため、現在の価格はもちろん昨年ほど高くはない。むしろ、2年前と同等か、わずかに高い水準にある。「これは、投入コストがすべて高くなっている生産者にとっては良いことだ。ブドウを出荷するまでのコストはすべて高くなっている。しかし、小売業者への販売価格は、彼らが消費者をどうにか引き付けることができる水準に維持している。これは、生産者のニーズと消費者のニーズのバランスを取るものである。」

執筆者: アウトリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)米国カリフォルニア州 7月の猛暑がブドウの収穫に影響

[FreshPlaza 2024年8月15日](#)

フレズノ郡の7月は前例のない気温を経験し、気象学者のクリスティン・グレゴリー氏は、国立気象局の平均気温の計算に基づいて、記録上最も暑い7月であったと断言している。全米の生食用ブドウのかなりの部分を生産していることで知られるこの地域では、26日間にわたって気温が華氏100度(約37.8℃)を超え、最高気温は114度(約45.6℃)に達した。地元の生産者のジョージ・マトイアン氏が言うように、この猛暑は、灌水量を増やしたにもかかわらず、ブドウの日焼けやサイズなど、ブドウ栽培関係者に顕著な課題をもたらした。

猛暑は、果粒の着色や大きさ、糖度などブドウの品質に悪影響を与えただけでなく、現場作業員の熱中症等の予防のための労働時間短縮にもつながった。気温が高いため、作業時間を早朝から正午前までに短縮する必要があった。さらに、暑さは現場の梱包作業に影響を与え、地表オゾン(太陽光、熱、汚染物質の相互作用によって生成される有害な化学物質)のリスクを高めた。

このような困難にもかかわらず、マトイアン氏は、暑さがブドウの木に長期的なダメージを与えていないという希望を捨てておらず、今後数週間で回復することを期待している。グレゴリー氏は、このような極端な気象条件が常態化する可能性があるかと警告し、将来の同様の出来事に備えるよう促している。

出典: [abc30.com](#)